

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディボーションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

ディーゴ ガイド



2023.6.19-25

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

1:12 そこで、使徒たちはオリーブという山からエルサレムに帰った。この山はエルサレムに近く、安息日に歩くことが許される道のりのところにあった。

1:13 彼らは町に入ると、泊まっている屋上の部屋に上がった。この人たちは、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党員シモンとヤコブの子ユダであった。
1:14 彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心を一つにして祈っていた。

1:15 そのころ、百二十人ほどの人々が一つになって集まっていたが、ペテロがこれらの兄弟たちの中に立って、こう言った。

1:16 「兄弟たち。イエスを捕らえた者たちを手引きしたユダについては、聖霊がダビデの口を通して前もって語った聖書のことばが、成就しなければなりませんでした。

1:17 ユダは私たちの仲間として数えられていて、その務めを割り当てられていました。

1:18 (このユダは、不義の報酬で地所を手に入れたが、真逆さまに落ちて、からだが真二つに裂け、はらわたがすべて飛び出してしまった。

1:19 このことは、エルサレムの全住民に知れ渡り、その地所は彼らの国のことばでアケルダマ、すなわち『血の地所』と呼ばれるようになっていた。)

1:20 詩篇にはこう書いてあります。『彼の宿営が荒れ果て、そこから住む者が絶えますように。』また、『彼の務めは、ほかの人が取るように。』

1:21 ですから、主イエスが私たちと一緒に生活しておられた間、

1:22 すなわち、ヨハネのバプテスマから始まって、私たちを離れて天に上げられた日までの間、いつも私たちと行動をとめた人たちの中から、だれか一人が、私たちとともにイエスの復活の証人とならなければなりません。」

1:23 そこで彼らは、バルサバと呼ばれ、別名をユストというヨセフと、マッティアの二人を立てた。

1:24 そしてこう祈った。「すべての人の心をご存じである主よ。この二人のうち、あなたがお選びになった一人をお示してください。

1:25 ユダが自分の場所へ行くために離れてしまった、この奉仕の場、使徒職に就くためです。」

1:26 そして、二人のためにくじを引くと、くじはマッティアに当たったので、彼が十一人の使徒たちの仲間に加えられた。

聖霊を受けた人々によって神様の働きがいかに広がっていったか…。それが使徒の働きのテーマですから、まずはどのようにして聖霊を受けたかが記されています。そえは現代の教会にも当てはまることです。

まずはイエス様の言いつけどおりに聖霊を待ち望みました。聖霊を求めること、これが今も教会に求められていることです。

そしてどのように待っていたかということ、それは祈ったのです。心を合わせて祈りました。「2人でも3人でも心を合わせて祈るなら」とイエス様は言われました。心を合わせるためには、何といても一緒に集まることです。

さらには、群れの形式を整えることです。12というのはイスラエル全部族の数を表しますが、

ユダが脱落したことで、使徒の数が11になってしまいました。またユダは会計係りをしていましたから、その係りも必要です。くじを引いたのです。もちろん祈って。

以上は教会でも必要なことです。そしてその過程で一番大切なことは、みことばに沿って出来事を解釈し、みことばに従って行動しているということです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



20日 火曜

使徒

2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。

2:2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起り、彼らが座っていた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。

2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国々から来て住んでいたが、

2:6 この物音がしたため、大勢の人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、呆気にとられてしまった。

2:7 彼らは驚き、不思議に思って言った。「見なさい。話しているこの人たちはみな、ガリラヤの人ではないか。」

2:8 それなのに、私たちそれぞれが生まれた国のことばで話を聞くと、はい、いったいどうしたことか。

2:9 私たちは、パルティア人、メディア人、エラム人、またメソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントスとアジア、

2:10 フリュギアとパンフィリア、エジプト、クレネに近いリビア地方などに住む者、また滞在中のローマ人で、

2:11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレタ人とアラビア人もいる。それなのに、あの人たちが、私たちのことばで神の大きなみわざを語るのを聞くとはい。



2:12 人々はみな驚き当惑して、「いったい、これはどうしたことか」と言い合った。

2:13 だが、「彼らは新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、嘲る者たちもいた。

そしてとうとう聖霊がイエス様の約束通りに、信じ待ち望んだ弟子たちに下りました。聖霊は神ご自身ですから、当然それ以前にも存在しておられましたし、旧約聖書でも神の霊と記されています。ここで聖霊は個人に対してではなく、群れ全体に下られたのです。そしてそこから始まった聖霊のみわざによって教会が成立し、また今日も教会が建て上げられているのです。

その働きの第一は、他国のことばですなわちあらゆる国のことばで話すことが可能になったということです。これは違う文化にも福音が届くこと、そして全世界に福音が広がることを意味します。今日も私たちは聖霊によって他の文化に生きる人々にも福音を届けることができるのです。

「この人は無理だ」「このような人は教会には来ない」とあきらめないで、何よりも自分自身が聖霊に満たされることを求め、その良い感化によって教会に聖霊が働くことを求めてみましょう

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 21日 水曜

使徒



2:14 ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々に語りかけた。「ユダヤの皆さん、ならびにエルサレムに住むすべての皆さん、あなたがたにこのことを知っていただきたい。私のことばに耳を傾けていただきたい。

2:15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが思っているように酔っているのではありません。

2:16 これは、預言者ヨエルによって語られたことです。

2:17 『神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。

2:18 その日わたしは、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると彼らは預言する。

2:19 また、わたしは上は天に不思議を、下は地にしるしを現れさせる。それは血と火と立ち上る煙。

2:20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。

2:21 しかし、主の御名を呼び求める者はみな救われる。』

教会を建て上げるための聖霊の働きの第二は、幻と夢を見させて預言させるということです。かつてそのようなことは預言者という特別な人だけに限られていましたが、今や老若男女誰でもそのような賜物が与えられ得るということです。もちろん聖霊によって。

言うまでもありませんが、預言とは神様のことばを預かって、それを明らかにすることです。

ら、当然聖書が不可欠です。聖書こそが神のことばだからです。この「ヨエルによって語られたこと」も聖書そのものです。

しかし、ただ聖書を知識として語るのではなく、現実の出来事として、また自分（または自分たち）の現実語られたこととして、聞き、そして現実を悟ることができるのです。

そして神様の大きい計画の中で、今が「終わりの日」に近いことを知りつつ、救いを伝えて行くという使命があるのです。

色々な意味で、つまり人生も、この世相も、またこの世界そのもの、いつまでも続くわけではありません。終わりが近づいているのですから、聖霊に満たされることを求め、神のことばを預言（預かって、それを伝える）しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:22 イスラエルの皆さん、これらのことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと不思議とをしを行い、それによって、あなたがたにこの方を証しされました。それは、あなたがた自身がご承知のことです。

2:23 神が定めた計画と神の予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは律法を持たない人々の手によって十字架につけて殺したのです。

2:24 しかし神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながられていることなど、あり得なかったからです。

2:25 ダビデは、この方について次のように言っています。『私はいつも、主を前にしています。主が私の右におられるので、私は揺るがされることはありません。』

2:26 それゆえ、私の心は喜び、私の舌は喜びにあふれます。私の身も、望みの中に住まいます。

2:27 あなたは、私のたましいをよみに捨て置かず、あなたにある敬虔な者に滅びをお見せにならないからです。

2:28 あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前で、私を喜びで満たしてくださいます。』

2:29 兄弟たち。父祖ダビデについては、あなたがたに確信をもって言うことができます。彼は死んで葬られ、その墓は今日に至るまで私たちの間にあります。

2:30 彼は預言者でしたから、自分の子孫の一人を自分の王座に就かせると、神が誓われた

ことを知っていました。

2:31 それで、後のことを予見し、キリストの復活について、『彼はよみに捨て置かれず、そのからだは朽ちて滅びることがない』と語ったのです。

2:32 このイエスを、神はよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。

2:33 ですから、神の右に上げられたイエスが、約束された聖霊を御父から受けて、今あなたがたが目にし、耳にしている聖霊を注いでくださったのです。

2:34 ダビデが天に上ったものではありません。彼自身こう言っています。『主は、私の主に言われた。あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。』

2:35 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。』

2:36 ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。』

群れに聖霊が下り、それによって使命が果たせるようにと人々が変わりました。そして初めに行われたことが伝道です。すなわち人々を救いに導くという尊い行為です。人間が生まれてすぐに呼吸をして生きるように、教会は生まれてすぐに伝道し、生きるものとなるのです。

当然、この伝道は聖霊の知恵によってなされたものですから、大いに学ぶべきところがあります。第一に、人々が知っていることから始めています。「あなたがた自身がご承知のこと」から始めるのです。そうでないなら終始平行線に終わるでしょう。

第二に、「あなたがたは…殺しました」と、相手の実際に関わる問題点を、しっかりと話題にします。一般論や概念だけで終わっては、相手の存在に関わることがで

きません。

第三に、復活の力という、神の全能を示します。神の存在を明らかにしなければ、相手に永遠の真理が伝わられません。

第四に、相手がすでに受け入れている真理からも説明します。この場合は旧約聖書ですが、倫理や自然法則の場合もあるでしょう。

第五に、同じく聖書の引用ですが、何と言っても聖書の根拠です。聖書は神のことばですから、何よりも聖書に力があるのです。人を変える力は神のことばによります。

そして最後に大切なのは、「あなた（がた）は」と、その人自身のこととして語ることです。伝道は、客観的な事実や、教えを伝えるだけでなく、「あなたは」招かれています、「あなたは」救われますと、本人に迫ることです。

そしてそれらすべてが聖霊の愛と力で行われることです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいのでしょうか」と言った。

2:38 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

2:39 この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」

2:40 ペテロは、ほかにも多くのことばをもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。

2:41 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

2:42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

2:43 すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議とするしが行われていた。

2:44 信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、

2:45 財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。

2:46 そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

2:47 神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにくださった。

ペテロは悔い改めを人々に勧めました。人が救われるためには、「イエスを信じるだけでよい」という言い方があります。間違っていないですが、それは簡潔な表現であって、省略されていることがあります。

イエスを信じるとは、イエス様が全能で聖なる神であることが含まれています。またそのイエスは十字架で罪の身代わりとして死なれたということも、実はその罪人とは自分自身であるということも知る必要があるのです。それらを含めて「イエスを信じる」ということになります。

しかし現実的に考えて、相手に伝えることのできる順番があります。興味も自覚もない人に、神学や教理の話を経々としても、反感を買っただけでしょう。それは愛のある伝え方とは言えません。ペテロは人々が「心を刺され」ている様子を見て、悔い改めを迫りました。聖霊による判断でしょう。

彼は「イエス・キリストの名によってバプテスマを受ける」ことを勧めました。当時のバプテスマはまだキリストによるものではなかったのです。聖霊を受けるというのではなく、あくまでも儀礼的なものでした。

悔い改めとは、当然イエスが主であること、自分が罪人であることを信じるからこそであり、またその信仰を明らかにするのがバプテスマです。「心で信じて、口で告白すれば救われます」というのと一緒で、信仰を表すのです。

信仰を表しましょう。バプテスマ（洗礼）は神様が定めた表現方法です。信じたならば素直に従うべきです。また表し続けましょう。そうすれば聖霊に満たされ続けることができるでしょう。

三千人もの人が一度に救われたとありますが、1人1人は信仰を保つことができました。それは宮に集まるという一致があったこと、そして家々に集まるという信仰生活の親しい交わりがあったからです。クリスチャンにとってその2つは決して欠かすことのできないものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:1 ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。
3:2 すると、生まれつき足の不自由な人が運ばれて来た。この人は、宮に入る人たちから施しを求めるために、毎日「美しい門」と呼ばれる宮の門に置いてもらっていた。
3:3 彼は、ペテロとヨハネが宮に入ろうとするのを見て、施しを求めた。
3:4 ペテロは、ヨハネとともにその人を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。
3:5 彼は何かもらえると期待して、二人に目を注いだ。
3:6 すると、ペテロは言った。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」
3:7 そして彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、
3:8 躍り上がって立ち、歩き出した。そして、歩いたり飛び跳ねたりしながら、神を賛美しつつ二人と一緒に宮に入って行った。
3:9 人々はみな、彼が歩きながら神を賛美しているのを見た。
3:10 そしてそれが、宮の美しい門のところで施しを求めて座っていた人だと分かったと、彼の身に起こったことに、ものも言えないほど驚いた。

イエス様が行った癒しや悪霊追い出しなどの奇跡は、イザヤ書などに預言されたメシヤであることを表します。「聖書が実現するためであった」とあることから分かります。一方使徒の働きにおける奇跡は、宣教の中で神様がどのように働かれたか、またはこれから働いてくださるのかを明らかにし

ています。ですからここでも、単に癒されたから信じたということ以上に大切な神様のみこころがあります。

ここでは宮にいつもいながら癒されない人が、イエスの名によって癒されたということが記されています。宮はイスラエルの救いの象徴ですが、それはあくまでも神ご自身あつてのことです。主はイエスの権威によって宣教する人々に力を表されるのです。クリスチャン自身が神の存在を表す宮である、パウロも書いています。

ペテロとヨハネは「金銀は」と明言しています。教会も、また指導者も人に物質的なものを与えることは本来の目的ではありません。神様のみわざによって、人々が救われて神を賛美するようになることです。

しかし、この男が求めていた「何かもらえる」という以上の恵みを、神様が与えたという事実も見逃せません。神様の福音は、神様の愛とともに伝わるのです。それは時に、伝える私たちの行いを通して表されます。

また「イエス・キリストの名によって」ということも重要です。神という名前なら他にも偶像に使っています。イエスすなわち人となって人類の罪を負ってくださった神こそが真の神なのです。

そして癒された者はただ喜ぶだけでなく、弟子たちとともに行動するのです。そして神を賛美し人々にその証しをするのです。救いとは、救われてよかったで終わるものではなく、そのようなものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:11 この人がペテロとヨハネにつきまといっているうちに、非常に驚いた人々がみな、「ソロモンの回廊」と呼ばれる場所にいた彼らのところに、一斉に駆け寄って来た。

3:12 これを見たペテロは、人々に向かって言った。「イスラエルの皆さん、どうしてこのことに驚いているのですか。どうして、私たちが自分の力や敬虔さによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。

3:13 アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち私たちの父祖たちの神は、そのしもべイエスに栄光をお与えになりました。あなたがたはこの方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その面前でこの方を拒みました。

3:14 あなたがたは、この聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、

3:15 いのちの君を殺したのです。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。

3:16 このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに、あなたがたが今見て知っているこの人を強くしました。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの前で、このとおり完全なからだにしたのです。

3:17 さて兄弟たち。あなたがたが、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行いをしたことを、私は知っています。

3:18 しかし神は、すべての預言者たちの口を通してあらかじめ告げておられたこと、すなわち、キリストの受難をこのように実現されました。

3:19 ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去

られます。

3:20 そうして、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにあらかじめキリストとして定められていたイエスを、主は遣わしてくださいませ。

3:21 このイエスは、神が昔からその聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物が改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。

3:22 モーセはこう言いました。『あなたがたの神、主は、あなたがたの同胞の中から、私のような一人の預言者をあなたがたのために起こされる。彼があなたがたに告げることすべてに聞き従わなければならない。』

3:23 その預言者に聞き従わない者はだれでも、自分の民から断ち切られる。』

3:24 また、サムエルをはじめ、彼に続いて語った預言者たちもみな、今の時について告げ知らせました。

3:25 あなたがたは預言者たちの子であり、契約の子です。この契約は、神がアブラハムに『あなたの子孫によって、地のすべての民族は祝福を受けるようになる』と言って、あなたがたの父祖たちと結ばれたものです。

3:26 神はまず、そのしもべを立てて、あなたがたに遣わされました。その方が、あなたがた一人ひとりを悪から立ち返らせて、祝福にあずからせてくださるのです。」

ペテロはこのチャンスを逃さずに福音を伝えました。イエスを信じる信仰のゆえに彼が癒されたこと、そしてイエスの十字架とよみがえり、さらに旧約聖書による検証です。
人々がクリスチャンや教会に起きたこと、すな

わち神のみわざに興味を持つことがあるでしょう。そのときは神様を伝えるチャンスです。本来神様はご自身を表すためにみわざを行われるのですから、それを証ししないではみわざが無駄になってしまいます。

主のみわざが与えられたなら、もちろん感謝しましょう。そしてそれによって伝道しましょう。また証ししましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

